

## 22 打球または送球が偶然選手のユニフォームの中に入る

打球または送球が偶然選手またはコーチのユニフォームの中に入ったり、あるいは捕手のマスクまたは用具の中に入り込んだりしたら（捕手のマスクまたは用具の中に挟まって止まった場合を含む）、審判員は“タイム”を宣告する。そして、審判員の判断で、走者を次塁に進めるか、その塁に留めるかの処置をする。走者にアウトが宣告されることはない。（定義15）

なお、送球によってこのような事態が生じた場合、進塁させる基準は、送球が（最後の）野手の手を離れたときとする。

**例題：**ファウル飛球を捕手がいったんミットではじき、再び捕球しようとしたがボールがプロテクターと身体の間に入った。その後、捕手は一連の動作でボールを取り出し、球審に保持しているのを示した。

——定義15にいう正規の捕球とは言いがたく、ファウルボールとするのが妥当である。

## 23 打球または送球がグラブにはさまる

打球または送球がグラブにはさまった場合、ボールはライブでインプレイである。野手はグラブにライブのボールがはさまったまま、そのグラブを他の野手に投げることは正規のプレイである。ボールがはさまったグラブを受け取った野手は規則どおりにボールを保持したとみなされる。たとえば、野手は、ボールがはさまったグラブを持って走者または塁にタッグすることができる。これは正規のプレイである。

以前は、規則定義15に「野手がインフライトの送球を手またはグラブでしっかり受け止め」とあることから、グラブにはさまったままでは「インフライトの送球」を受けとめたことにはならず、そのグラブを受け取ってもアウトにはならず、ボールインプレイであるに過ぎないとの解釈をとっていたが、2007年のプロ・アマ合同委員会およびアマ規則委員会で、MLBの解釈に倣い、上記の解釈に改めた。

**例題：**打者が投ゴロを打った。投手はその打球をグラブに収めるもボールがなかなかグラブから取り出せず、投手はボールがはさまったままグラブを一塁手に投げ、それを一塁手が打者走者が一塁に到達する前に捕った。